

前段階蜂起から

世界革命戦争へ！

世界同時革命！

世界党—世界赤軍—世界

革命戦線を創出せよ！

赤軍

発刊
準備号

1969年

9月4日

一部20円

共産主義者同盟赤軍派

赤軍編集局(準)

連絡先

045-311-7456

前段階蜂起—世界革命戦争 争に向け、共産同赤軍派 に結集せよ！

—共産同の現在点と我々—

〔共産主義者同盟赤軍派結成総会〕

〔序〕

全世界日本の全ての
プロレタリア人民、兄弟
同志諸君、共産主義者
同盟の旗の下過去共に闘
い抜き全ゆる苦闘と辛酸
を共に分かちあって来た同
盟シンパサイダー、並び
にキム、同盟同志諸君、
我々は諸君の一切の革命
的過去を代表すべくその
革命的な遺産を受け継ぎ、
全てのその革命的未來を
代表すべく決意し、今こ
こに共産主義者同盟赤軍
派を結成することを宣言
する。

過渡期世界に在って歴
史の客体から主体へと成
熟、到達しつつある世界
武装プロレタリアートの
過去、現在、未來の全て
の総体が、今秋の世界階
級闘争の大転換と一大攻
防に煮つき、その運命
を注ぎこんでいる。こ
の時、同盟がこの世界武
装プロレタリアートの最
高統司令部として自ら
を任務し、鍛えあげること
を絶対的任務として要
請されている。この世界
武装プロレタリアートの
世界史的根底的矛盾の果
積、爆発はかつてどの国
際共産主義運動もが挫折

し、創造的実践的に切り
開けなかった地平として
①過渡期世界の世界史的
認識を基礎に、②④世界
同時革命、③世界革命戦争
—世界革命戦争(世界革
命戦争—世界(二国)協
議会)として世界革命の
在り方、形態、世界武装
プロレタリアートの団結
様式をもつて、③世界
日本、前段階蜂起—世界
革命戦争、として闘い、
同時に、その一國性と世
界性の矛盾を、軍事と政
治の矛盾を後者に於いて
止揚する世界革命戦争へ
自らを止揚することと一
体に関わられてのみ唯一展
開されるのである。

蜂起—世界革命戦争とし
て闘い抜くか否か、同盟
の世界性と一國性、「党」
の「軍事」の矛盾を走
揚する党組織の問題とし
て煮つめた。それは別
の側面において④レーニ
ン主義を発展止揚するの
か、⑤レーニン主義を教
条化、石化するのかが、
⑥これを修正するのかが、
二つの側面のただ一つの
問題としてマルクス、レ
ーニン主義の根幹に關する
実践的問題としてあつた。
たのだ。これは誰の怒意
でもなく、又党建設一般
に於いて、もっともま
やっておれば良かったとい
う性質でもなく、世界
史に普遍化される国際的
な三つの流れの不可避の
真刻な闘争の発端であり、
潜在的なものの顕在化で
あり、その選択は世界武
装プロレタリアートの未
来が唯一審判するもので
ある。かつて過渡期世界
の最良の革命的プロレタ
リア分子に武装された、
共産主義者同盟は、正に
そのものであるが故に、こ
の世界史的闘争を自ら大胆
に引き請けなければなら
ぬ運命にある。我々同盟
に引き請けられた世界
に、広然と引き受けるで

ある。我々は今秋の前
段階蜂起—世界革命戦争を
真に最後まで貫徹する
だろう。我々は同盟内の
新カウチキ主義、レー
ニン主義の教条、石化、
新ベルシュタイン主義傾
向(レーニン主義の修
正)、中央派、中大派を
排除し、革命党建設
に固執する同盟第九回大会
を獲得するであろう。

第一章 共産主義
者同盟の危機と我々
赤軍派

第一節 世界—日本階
級闘争の大転換と国際共
産主義運動の世界史的再
編、及び同盟の位置

①今、日本帝国主義は
七〇年代永続的侵略、抑
圧—反革命戦争に向け、
安保—今秋攻防を媒介とし、
権力再編を貫徹せんとし、
これに向けてのプロレ
タリア人民の自国帝国主
義政府打倒の闘争を推し
上げんとしている。大衆
はその自然発生性を、中
央権力闘争、MSTと
して表現せんとしている。
大衆のかかる自然発生性
は、萌芽的中央権力、M
STの武装闘争の演進は、
目的意識的、組織的な権
力闘争として闘いとられ
ねばならない。②これに

対して、佐藤は、侵略、
反革命を統一せんとする
過渡期世界の擬制的世
界観(その象徴は沖繩返
還と反共—地方領土問題)
を、反革命同盟と既存権
力のブルジョア(自衛隊
の反革命—侵略抑圧軍隊
化、機動隊の反革命突撃
隊化)をもって専政し、
この攻防過程を勝利的に
貫徹し、なし崩しにファシ
ズム—局地的侵略、抑圧
—反革命戦争を常態化せ
んとしている。

今革命的党派に問われ
ているのは、(1)自國一
國の矛盾の解明や、帝國
主義世界のそれでもなく、
明らかに過渡期世界を解
明し、その総体を革命す
る世界観—世界戦略であ
り、(2)その実践的課題は、
一國プロレタリアート
独や、プロレタリアート
をまじり国民的支配階級に
高め、それから世界的階
級へではなく、一國権力
奪取—世界革命戦争では
ない。自國権力自体が世
界—一國である以上、
権力闘争も又世界—一國
的であるのだ。(國家と
世界革命)だから権力闘
争は、ただ一度や瞬間の
攻撃や闘いでなく、長期
で、一國のプロレタ
力の最終的打倒が、同時
に、地球上のブルジョ
ア権力の最終的打倒とし
て、世界プロレタリア
現される、世界的有機的
一國性として同時性をも
った闘い—世界革命戦争
であるのだ。それ故一國
プロレタリアートの自然発
生としてのソウエイエー
動を自己目的化するの
でなく、世界革命戦争
の勝利に向けた、世界的
有機的、単一的な世界
革命戦線へと形成しプロ
レタリア人民を単一の世

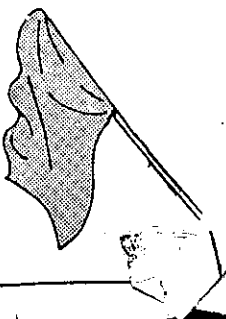
界性と一國性)を分袂さ
せたままの「階級性と軍
事」を分袂されたままの
自然発生的武装闘争の発
生—発展と分解再編とし
て体现される。世界階級
危機が、六七年10月11日
前、第三世界に於いて爆
発することにより世界武
装プロレタリアートは、
後進国プロレタリアート
を中心として登場し、日
本プロレタリアートはそ
の一部であり、これを媒
介して世界プロレタリア
トへの成熟を開始した。

そして、日本帝国主義の
自立的なアジア侵略、抑
圧—反革命の動向とその
危機を媒介し、10月11日以降
自國帝国主義打倒の鋭角
的闘いをもつて、その世
界性を一國性のなかに胎
現させ始めたが、党派に
於いてその世界性と一國
性を分袂させたまま進行
させたのであった。かか
る危機は仏—カルチエラ
タン、米—反戦、黒人闘
争、OLAS、ベトナム
中国、チェコとして世界
的に貫徹し、六八年世界
史的に貫徹し、六八年世界
—一國階級闘争を総体と
して後退させたのであつ
た。だが、10月11日東大闘
争、過渡期世界の帝國主
義諸列強相互の世界的抗
争の、安保—NATO再
編、ベトナム反革命の再
編と一國の権力再編の動
向は、この分裂を客体か
ら止揚する契機を大規模
に与え、それ故に「党と
軍事」の矛盾を止揚する
契機を与えたのであつた。
かかる矛盾の止揚の客
体的契機を媒介し、い
かにこれを主体に於いて
止揚し得るかが、10月11
日、10月28日問われ、これは
今秋の「安保決戦」に煮
つまったのである。同盟
は六八年10月28日

もつて、この主体的止揚
を根底的に問われたので
あつた。

第二節 第八回大会、
その限界と「赤軍派」の
誕生。

①「世界性と一國性」
「党と軍事」の矛盾を
「戦略—戦術」、党建設
論の獲得を通じて、克服
し党と先進的集團—プロ
レタリア大衆の結合を推
し進め、自然発生的武装
闘争を目的意識的武装闘
争に転化せんとする同盟
の試みは、「党—先進的
集團—大衆」次元の「運
動—組織論」と一國とな
りつつ、まず戦略—戦術
の指針として展開された。
即ち安保闘争をいかなる
「性格、広さ、深さ」に
於て位置付け、「いかに
闘うか」であった。同盟
はこれに解答を与えな
いまま、世界—日本階級闘
争の自然発生的武装闘争
から目的意識的武装闘争
へ、前段階蜂起—世界革命
戦争への過渡期に、「世
界性と一國性」「政治と
軍事」の矛盾を「戦略—
戦術」「党建設」として
主体的に解明物質化しえ
ないまま、10月11日東大闘
争を経て10月28日、危機
を根底的にしたのである。
同盟総体の敗北の事態は、
7回大会で獲得した「上
からの」「党の独自活動」
を媒介とする党建設—階
級 (二面に続く)



(二面より続く)

形成の路線を放棄せしめ、上からの指導の後退と共に「下からの論理」による大衆との即時的結合で解決しようとする傾向を強出した。他方それに対する反発として、上からの指導性の強化が、非実践的な啓蒙主義的、戦略論の経済学的分析と党建設論の主体性哲学的獲得をめざす傾向を生み落した。問題は安保闘争の「広さ、深さ、性格」を権力闘争の問題として捉え、「世界性と一国内性」「政治と軍事」の矛盾の止揚統一を、権力闘争と世界革命戦争に見合う①「党の改組」として②先進的集団SSS L、キムの統合とその中核の軍団化③反帝統一戦線の限界一互解の世界日本革命戦線への再編止揚であったのである。

8回大会は、下からの経済主義的—大衆運動主義的傾向、これと対照的な理論主義的、啓蒙主義的傾向の総集約点であり、実践的には事実上、「安保闘争は何もやらな」という路線の確定大会であった。

8回大会は階級闘争の党的指導の實踐的問題④安保闘争の階級的攻防の性格を鮮明にせず、権力問題⑤世界革命戦争の内容⑥党の改組、党の軍団獲得、その一環としてのSSS L・キムの建設・統合⑦反帝統一戦線の権力闘争—世界革命戦争の統一戦線への再編—発展、という10/21以後の焦眉の課題が遂に提出—検討されなかった。逆に提起されたのは、①過渡期世界の客観主義的受動主義的把握による、客観主義

的立場論への世界同時革命の立場論への変質、②安保闘争の攻防の性格に対して、流通主義的経済学—恐慌帝国主義論に立脚し、恐慌の国独資による引き延ばしを軸にした世界階級危機論、国内攻撃主要論、恐慌対策としての権力再編論、③統一戦線と戦術に於ける、中央権力闘争のバックラッシュとしての位置付け、反帝統一戦線の一層の後退と、経済主義的対応の路線、④党建設に於ける精神主義と組織技術主義、政治的基準を喪失した組織戦術一般論、であった。

り抹殺せんとした他の二つの傾向は、内部で観念的に争いつつ、不毛な私設大会を、1/3程の同盟員を動員して、「9回大会」としてデッチ上げたのである。

②同盟基幹官僚層として構成される中央派(彼等は自らをボルシェヴィキ派とし、いつているが「党と軍事」の矛盾を止揚する「党の改組」を可能にすることが理解出来ない。彼等は現代の権力闘争—武装蜂起が文字通り世界一国内であり、長期の世界革命戦争であり、世界一国内で終ることを理解出来ず、いざいざとして、ロシア革命をスターニストと同様に普通化し、現在に適用し、権力奪取—プロレタリア革命戦争として「段階的」

「一国内—世界」として考へ、それ故に革命とプロレタリア革命の寄せ集めであり、世界党もまた、寄せ集め党としてしか把握出来ないのだ。

この過程で、8回大会路線は完全に破産を宣告され、同盟内の三つの傾向は止揚されることなく、増々その歴史的性格を徹底させた。我々の自己批判運動を、官僚的に、最後通告主義的に全く拒否し、大会までに地上よ

りて、各国のプロレタリアートを、一国内の支配階級に高めること自体が世界武装プロレタリアートとして、当初からより意識的に、「世界同時革命、世界革命戦争、世界革命—世界赤軍—世界革命戦線」の意識性をもってのみ、「世界一国内性」

「党と軍事」の矛盾を止揚する「党の改組」を可能にすることが理解出来ない。彼等は現代の権力闘争—武装蜂起が文字通り世界一国内であり、長期の世界革命戦争であり、世界一国内で終ることを理解出来ず、いざいざとして、ロシア革命をスターニストと同様に普通化し、現在に適用し、権力奪取—プロレタリア革命戦争として「段階的」

「一国内—世界」として考へ、それ故に革命とプロレタリア革命の寄せ集めであり、世界党もまた、寄せ集め党としてしか把握出来ないのだ。

この過程で、8回大会路線は完全に破産を宣告され、同盟内の三つの傾向は止揚されることなく、増々その歴史的性格を徹底させた。我々の自己批判運動を、官僚的に、最後通告主義的に全く拒否し、大会までに地上よ

には、全くの経済主義へと転落するのである。

④同盟中央は、7/6以降、我々の自己批判と大会出席要求を、官僚主義的に握りつづき、私設統制委をデッチ上げることをして処分と二重写しにし、かゝる術策でもって、我々の9回大会への諸活動を、地上から葬り去ろうとした。

かゝる我々の出席によって、同盟総体の根底的危機がバクログされ、真の総括が要求されることに恐怖して、同盟中央は、自己批判—相互批判と全同盟的討論を封じ込め、私設分派会議として「9回大会」をデッチ上げたのである。我々はこれを大会として、その決議と共に認めるわけにはいかない。それ故、我々は共産主義者同盟赤軍派を、この陰謀を粉砕し、真の革命的9回大会を打ち取ることをめざし結成した。我々は同盟の、国際共産主義運動に於ける10年の金字塔を、今、その一切

の革命的遺産を受け継ぎ、その未来を代表すべく闘うことを宣言する。

でもって完成する過程である。それ故に権力闘争が世界一国内革命戦争として闘われ、これと一体に、一国内のプロレタリア独裁が、ただ唯一直接的に世界プロレタリア独裁としてのみ実現される。

⑤ したが、権力闘争—世界革命戦争は、世界革命と単一のプロレタリア先進集団を中核とする世界赤軍と、世界武装プロレタリアートの世界革命遂行と世界プロレタリア独裁実現の機関—世界革命戦線(世界革命戦争協議会)の三者の世界武装プロレタリアートの内的結合関係をもってのみ勝利し得る。

⑥ 決して、ロシア革命の如く発展し、俗物的に描かれた一国内の権力奪取—革命の輸出—飛火、政治革命—社会革命の二段階、算術給和革命ではない。

我々はレーニンとロシア革命の被支配階級としてのプロレタリアートが世界史的制度のなかで、世界史的の制度のなかで、まず、一国内の支配階級として自らを組織し直すことを通じてのみ唯一始め、世界武装プロレタリアートとしての運動を展開し得る。その歴史的要請に於て世界史的な業績を基礎として、世界武装プロレタリアートから出発し、レーニンとロシア革命の未完を完成させんとしているのである。

(四頁の中段に続く)

A 戦争宣言

ブルジョア諸君、我々は、君達を世界中で革命戦争の場に叩き込んで一掃するために、ここに、公然と戦争を布告するものである。

ブルジョア諸君、君達が、たとえ、米軍、NATO軍、安保管、ベトナム連合軍、等々、全世界の軍隊や、全世界の警察を総動員しようとも

又、君達が骨抜きに交質させたソ連、ワルシャワ軍までをも動員したとしても我々は、全世界のプロレタリア人民の力を世界一世界赤軍、世界革命戦線の下に結集し、必ずや叩きのめしてしま

君達の歴史的罪状は、もう、わかりすぎているのだ。君達の歴史は血塗られた歴史である。第一次大戦。第二次大戦。君達同志の間での世界的強盗戦争のために、我々の仲間をだまして動員し、互いに殺しあわせ、あけくらの果ては、がっほりと

君達は、植民地を略奪するために、我々の仲間を殺した。仲間をそのか、植民地を略奪したり、そのわけまえをやる

と、後進国の仲間を、君達がそのかした仲間をつかって殺させたのだ。それだけではない。そらやって略奪した植民地を、君達同志で奪いあ

うための強盗戦争にも、同じように仲間をそのか、殺しあわせたのだ。

我が、日本のブルジョア諸君、君達にもうそは言わせない。富国強兵

のスコーガンのもと、日清、日露、第一次、第二次の強盗戦争をやった来たではないか。

我々は、もう、そのかさね、だまされはしない。否、そのかさね、だまされないうたけではない。我々は、過去のうらみを持って君達をのろうと共に、またまた君達がやろうとしていることに

B 前段階蜂起

世界革命戦争の戦いを前に、君達をこの世から抹殺するために、最後まで闘い抜く。

ブルジョア諸君、いままで、君達の思い通りになると思っていたら、大まちがいだ。我々は、過去、封建領主の

もとは家畜のように領土のありの中に縛りつけられた農奴だった。君達は、この身分の枠を破り

我々を、君達の自由にするために「自由、平等、博愛」のスコーガンの下、領主たちと闘った。だが、

君達が、朝鮮で再び戦争をやるために、自衛隊を増やし、フォークス、レナナヤ、三矢作戦をや

り、朴独裁三選のため、それに反対する任君を逮捕し、死刑にする権利があるのら、我々にも君達を銃剣で突き刺す権利があるのら、我々にも君達

君達が、朝鮮で再び戦争をやるために、自衛隊を増やし、フォークス、レナナヤ、三矢作戦をや

り、朴独裁三選のため、それに反対する任君を逮捕し、死刑にする権利があるのら、我々にも君達を銃剣で突き刺す権利があるのら、我々にも君達

君達が、朝鮮で再び戦争をやるために、自衛隊を増やし、フォークス、レナナヤ、三矢作戦をや

り、朴独裁三選のため、それに反対する任君を逮捕し、死刑にする権利があるのら、我々にも君達を銃剣で突き刺す権利があるのら、我々にも君達

革命戦線を結成し、前段階蜂起にバク進せよ！ 日本世界赤軍を登場せしめよ！

軍事革命委員会

新しい飛躍を今、開始しはじめたからである。世界革命戦争の序曲が、新しい音をかき立てている。闘争を越える10/8以降ではないか。中、ソは国境で内ゲバを行ない、チエコで反乱が起っている。アイルランドでカトリックとプロテスタントの宗教戦争が起り、英軍が介入している。これらの大混乱があるにもかかわらず、第二次大戦後世界を破る全く新しい事態はこの間、様々起った。ベトナム17歳、南、アメリカ反共、反戦闘争の出現。中共、反戦闘争の出現。中

国共産党の解体止揚が、もはや共産党自身で克服するものが現われて、

の新しい飛躍を今、開始しはじめたからである。世界革命戦争の序曲が、新しい音をかき立てている。闘争を越える10/8以降ではないか。中、ソは国境で内ゲバを行ない、チエコで反乱が起っている。アイルランドでカトリックとプロテスタントの宗教戦争が起り、英軍が介入している。これらの大混乱があるにもかかわらず、第二次大戦後世界を破る全く新しい事態はこの間、様々起った。ベトナム17歳、南、アメリカ反共、反戦闘争の出現。中共、反戦闘争の出現。中

国共産党の解体止揚が、もはや共産党自身で克服するものが現われて、

の新しい飛躍を今、開始しはじめたからである。世界革命戦争の序曲が、新しい音をかき立てている。闘争を越える10/8以降ではないか。中、ソは国境で内ゲバを行ない、チエコで反乱が起っている。アイルランドでカトリックとプロテスタントの宗教戦争が起り、英軍が介入している。これらの大混乱があるにもかかわらず、第二次大戦後世界を破る全く新しい事態はこの間、様々起った。ベトナム17歳、南、アメリカ反共、反戦闘争の出現。中共、反戦闘争の出現。中

国共産党の解体止揚が、もはや共産党自身で克服するものが現われて、

の新しい飛躍を今、開始しはじめたからである。世界革命戦争の序曲が、新しい音をかき立てている。闘争を越える10/8以降ではないか。中、ソは国境で内ゲバを行ない、チエコで反乱が起っている。アイルランドでカトリックとプロテスタントの宗教戦争が起り、英軍が介入している。これらの大混乱があるにもかかわらず、第二次大戦後世界を破る全く新しい事態はこの間、様々起った。ベトナム17歳、南、アメリカ反共、反戦闘争の出現。中共、反戦闘争の出現。中

国共産党の解体止揚が、もはや共産党自身で克服するものが現われて、

の新しい飛躍を今、開始しはじめたからである。世界革命戦争の序曲が、新しい音をかき立てている。闘争を越える10/8以降ではないか。中、ソは国境で内ゲバを行ない、チエコで反乱が起っている。アイルランドでカトリックとプロテスタントの宗教戦争が起り、英軍が介入している。これらの大混乱があるにもかかわらず、第二次大戦後世界を破る全く新しい事態はこの間、様々起った。ベトナム17歳、南、アメリカ反共、反戦闘争の出現。中共、反戦闘争の出現。中

国共産党の解体止揚が、もはや共産党自身で克服するものが現われて、

在させて現象させているものとして、その奥深き意味が明らかになればならない。その理解の中から、世界一世界赤軍、世界革命戦線の三結合をもつて、敵の史上三度目の分割戦、反革命米帝への、日、西独の反革命戦争を媒介とした侵略抑圧戦争への参加、なし崩しファシズム権力再編にぶちあたり、前段階蜂起、世界革命戦争を勝利に導く戦略、戦術が生まれる。

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

ブルジョア諸君、前段階蜂起、世界革命戦争に勝利せよ！

(三画より続く)

この過程で、攻防の質が変わる。この新たに訪れる重々しい攻防の質の中で、10/8がシカゴ戦争と結合しつつ開かれ、日本はもとどりの左翼は、老大なOとしての6/15のイメージが、4/28のイメージがなく、にもかかわらずアメリカのシカゴ戦争が10/8→10/11をピークとして準備され、この国際性と一団性のギャップや、11月決戦という一つの目標と、にもかかわらず立法で全共闘運動の波は頭打ちになっており、いつ、どのようにして、この壁を打ち破り11月への波を形成し、しかも国際的にはどのようにするのか、12月国会解散説をめぐり、社民、共産、公明の動きや、活発な右翼の動向等々、とからみ合って、最も有効に軍事的に登場するためには、どうすれば良いのか、等々として。

それ故、我々は、この分解を、より根底的に大衆の分解として押し進め、前段階蜂起への再編として勝ち取るためには、大阪―東京戦争と国際会議を準備し、赤軍―革命戦線(準)の組織化を勝ち取らねばならない。

大阪―東京戦争は、日本階級闘争史上かつてなかったような地点を作り出すであろう。それは人民が武器を敵から奪うことを学び、敵の攻撃にはそれ以上の報復をすることとを学び、大学立法―大衆戦争から脱皮し、無数の軍隊が一つの革命戦線として動き、全市民社会を国家破壊の革命戦争の渦の中へ叩き込むことを学ばなければならない。

この過程で、攻防の質が変わる。この新たに訪れる重々しい攻防の質の中で、10/8がシカゴ戦争と結合しつつ開かれ、日本はもとどりの左翼は、老大なOとしての6/15のイメージが、4/28のイメージがなく、にもかかわらずアメリカのシカゴ戦争が10/8→10/11をピークとして準備され、この国際性と一団性のギャップや、11月決戦という一つの目標と、にもかかわらず立法で全共闘運動の波は頭打ちになっており、いつ、どのようにして、この壁を打ち破り11月への波を形成し、しかも国際的にはどのようにするのか、12月国会解散説をめぐり、社民、共産、公明の動きや、活発な右翼の動向等々、とからみ合って、最も有効に軍事的に登場するためには、どうすれば良いのか、等々として。

それ故、我々は、この分解を、より根底的に大衆の分解として押し進め、前段階蜂起への再編として勝ち取るためには、大阪―東京戦争と国際会議を準備し、赤軍―革命戦線(準)の組織化を勝ち取らねばならない。

大阪―東京戦争は、日本階級闘争史上かつてなかったような地点を作り出すであろう。それは人民が武器を敵から奪うことを学び、敵の攻撃にはそれ以上の報復をすることとを学び、大学立法―大衆戦争から脱皮し、無数の軍隊が一つの革命戦線として動き、全市民社会を国家破壊の革命戦争の渦の中へ叩き込むことを学ばなければならない。

この過程で、攻防の質が変わる。この新たに訪れる重々しい攻防の質の中で、10/8がシカゴ戦争と結合しつつ開かれ、日本はもとどりの左翼は、老大なOとしての6/15のイメージが、4/28のイメージがなく、にもかかわらずアメリカのシカゴ戦争が10/8→10/11をピークとして準備され、この国際性と一団性のギャップや、11月決戦という一つの目標と、にもかかわらず立法で全共闘運動の波は頭打ちになっており、いつ、どのようにして、この壁を打ち破り11月への波を形成し、しかも国際的にはどのようにするのか、12月国会解散説をめぐり、社民、共産、公明の動きや、活発な右翼の動向等々、とからみ合って、最も有効に軍事的に登場するためには、どうすれば良いのか、等々として。

それ故、我々は、この分解を、より根底的に大衆の分解として押し進め、前段階蜂起への再編として勝ち取るためには、大阪―東京戦争と国際会議を準備し、赤軍―革命戦線(準)の組織化を勝ち取らねばならない。

大阪―東京戦争は、日本階級闘争史上かつてなかったような地点を作り出すであろう。それは人民が武器を敵から奪うことを学び、敵の攻撃にはそれ以上の報復をすることとを学び、大学立法―大衆戦争から脱皮し、無数の軍隊が一つの革命戦線として動き、全市民社会を国家破壊の革命戦争の渦の中へ叩き込むことを学ばなければならない。

この過程で、攻防の質が変わる。この新たに訪れる重々しい攻防の質の中で、10/8がシカゴ戦争と結合しつつ開かれ、日本はもとどりの左翼は、老大なOとしての6/15のイメージが、4/28のイメージがなく、にもかかわらずアメリカのシカゴ戦争が10/8→10/11をピークとして準備され、この国際性と一団性のギャップや、11月決戦という一つの目標と、にもかかわらず立法で全共闘運動の波は頭打ちになっており、いつ、どのようにして、この壁を打ち破り11月への波を形成し、しかも国際的にはどのようにするのか、12月国会解散説をめぐり、社民、共産、公明の動きや、活発な右翼の動向等々、とからみ合って、最も有効に軍事的に登場するためには、どうすれば良いのか、等々として。

それ故、我々は、この分解を、より根底的に大衆の分解として押し進め、前段階蜂起への再編として勝ち取るためには、大阪―東京戦争と国際会議を準備し、赤軍―革命戦線(準)の組織化を勝ち取らねばならない。

大阪―東京戦争は、日本階級闘争史上かつてなかったような地点を作り出すであろう。それは人民が武器を敵から奪うことを学び、敵の攻撃にはそれ以上の報復をすることとを学び、大学立法―大衆戦争から脱皮し、無数の軍隊が一つの革命戦線として動き、全市民社会を国家破壊の革命戦争の渦の中へ叩き込むことを学ばなければならない。

この過程で、攻防の質が変わる。この新たに訪れる重々しい攻防の質の中で、10/8がシカゴ戦争と結合しつつ開かれ、日本はもとどりの左翼は、老大なOとしての6/15のイメージが、4/28のイメージがなく、にもかかわらずアメリカのシカゴ戦争が10/8→10/11をピークとして準備され、この国際性と一団性のギャップや、11月決戦という一つの目標と、にもかかわらず立法で全共闘運動の波は頭打ちになっており、いつ、どのようにして、この壁を打ち破り11月への波を形成し、しかも国際的にはどのようにするのか、12月国会解散説をめぐり、社民、共産、公明の動きや、活発な右翼の動向等々、とからみ合って、最も有効に軍事的に登場するためには、どうすれば良いのか、等々として。

それ故、我々は、この分解を、より根底的に大衆の分解として押し進め、前段階蜂起への再編として勝ち取るためには、大阪―東京戦争と国際会議を準備し、赤軍―革命戦線(準)の組織化を勝ち取らねばならない。

大阪―東京戦争は、日本階級闘争史上かつてなかったような地点を作り出すであろう。それは人民が武器を敵から奪うことを学び、敵の攻撃にはそれ以上の報復をすることとを学び、大学立法―大衆戦争から脱皮し、無数の軍隊が一つの革命戦線として動き、全市民社会を国家破壊の革命戦争の渦の中へ叩き込むことを学ばなければならない。

前段階蜂起 ― 世界革命戦争に向けて ―
 第二回国際集會に結集せよ！
 世界革命戦線協議会を勝ち取れ！
 9月15日、6時、日比谷野音

編山集三言
 ◆発刊準備号は、我々の声明として、プロレタリア人民に送り、ブルジョアにたいさつつけるものである。

◆今号は体裁よりも、時間が決定的であったが故に、紙面が狭みにくいことを諒承願いたい。

◆我々は前段階蜂起への深く重々しい階級攻防に間に合うように、機関紙赤軍を週刊で発行する予定である。

◆我々はこの重大な宣伝の武器として役立つべき新聞として、この「赤軍」を定着させる決意であり、読者諸兄の協力を要請する。

◆尚、基調論文については、紙面の都合、次号に掲載する。

「赤軍」
 共産同赤軍派
 政治理論誌
 No 1, 2
 発売中
 現代革命論
 安保闘争論
 過渡期世界論
 No 3
 近日発売